

シンポジウム 「QOLを向上させる最先端スポーツ活動」

本学における多職種連携によるアスリートサポート体制



江玉睦明

理学療法学科 教授

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、本邦においては「マルチサポート事業」として、スポーツ医科学サポートやスポーツ医科学研究に対して多額の予算が計上され、国家としてスポーツを支える体制が整備されている。しかし、大学スポーツ（特に日本海側）におけるスポーツ医科学サポートは遅れている感が否めない。

米国においてはスポーツドクター・トレーナー制度の発達により、各大学にスポーツドクターやトレーナーが配置され、大学内で連携して選手のサポートを行っている。本邦においては、いくつかの体育系大学においてスポーツ医科学サポートを標榜してはいるものの、その存在が注目されることは少ない。その原因として、職種間の連携不足があげられる。

本学は、理学療法学科、健康スポーツ学科、健康栄養学科など医療福祉系の学科が多数存在する本邦で唯一の大学である。そこで我々は、2016年に本学にアスリートサポート研究センターを設立し、アスリートに対して関連病院である新潟リハビリテーション病院のスタッフと協働することで、様々な職種で構成されるマルチサポート体制を構築した。現在、本研究センターを中心に、アスリートに対する医科学サポート体制の整備と新たなスポーツ外傷・障害の予防・治療プログラム確立、人材育成として様々な学科の学生が協働できるチームアプローチ体制の構築に取り組んでいる。本セッションではこれらの活動を報告させていただく。

<略歴>

平成14年	医療法人博医会	新潟こばり病院	入職	
平成24年	新潟医療福祉大学	理学療法学科	助教	就任
平成27年	新潟医療福祉大学	理学療法学科	講師	就任
平成28年	新潟医療福祉大学大学院	博士（保健学）	取得	
平成29年	新潟医療福祉大学	理学療法学科	准教授	就任
平成31年	新潟医療福祉大学	理学療法学科	教授	就任

<資格>

理学療法士、専門理学療法士（基礎・運動器）

社団法人体表解剖学研究会、新潟スポーツ理学療法研究会、臨床解剖研究会、コメディカル機能解剖学会、足の外科学会、日本体力医学会、JOSKAS

<社会活動>

- ・(一社)新潟県サッカー協会 医科学委員会 医科学委員
- ・新潟スポーツ傷害フォーラム 世話人
- ・新潟スポーツ理学療法研究会 副会長
- ・足の構造と機能研究会 理事
- ・(一社)体表解剖学研究会 インストラクター
- ・日本理学療法士協会機関紙「理学療法学」査読委員
- ・新潟医療福祉大学 アスリートサポート研究センター 副センター長

<教育研究活動>

- ・新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター 非常勤勤務
- ・新潟リハビリテーション病院 非常勤勤務
- ・日本歯科大学新潟生命歯学部 研究生
- ・新潟大学解剖学第一講座 客員研究員

<特記事項>

- ・Barça Sports Medicine Conference登壇 (2018.10.9)
- ・第2回足の構造と機能研究会学術大会@森ノ宮医療大学 大会長 (2019.5.30)

<学会活動>

日本理学療法士学会、日本解剖学会、日本臨床スポーツ医学会、足の構造と機能研究会、一般